

スコール後道が「水路」に

プノンペン日本人学校

山本 直恵さん

＝糸魚川市出身＝



スコール後道(こんちちは)。雨期のカンボジアは連日気温が35度を超え、立っているだけで汗が滴り落ちます。から来たのか」と尋ねるので「日本です」と答えると「これは日本人が作った。いい橋だ」と話していました。

激しいスコールの後、学校前の道路は「水路」と化しますが、水陸両用のごくバイクを軽快に運転する人々の姿には圧倒されます。この高校の写真を撮ると「いい」と言いながらスピードを落としてシャッターチャンスを提供してくれる人もいました。「1歳だよ」と息子を膝に乗せているドライバーには、本当にひやひやしました。

市内の移動はトゥクトゥク(三輪車)が中心です。スマートフォンアプリを使ってドライバーを呼ぶと、ものの数分で到着します。事前に料金が決まっているので「ほったくり」はありません。逆走、追い越し、割り込みは当たり前。車やバイク、自転車、歩行者が縦横無尽に行き交う道路事情ですので安全とは言えませんが、安くて便利です。何より、いろいろな運転手に出会えるのも楽しみの一つです。トンレサップ川に架かる「日本カンボジア友好橋」を通過していた時のことでした。「どこか



スコールの後の街並み。あつという間に「水路」と化す

7月に入り、日本人学校をはじめとするインターナショナルスクールを試験的に再開させる方針が出され、先日、教育大臣が来校しました。日本大使館や日本人会の積極的な働き掛けがあったと聞きました。私の学校は月末に再開することが決まりました。子どもたちと授業や委員会活動をしたり学校のバナナやマンゴーを食べたりしたいなあ。休校が完全に解除される日を心待ちにしています。(山本さんは1968年生まれ。この春からプノンペン日本人学校に赴任しています)